

氏 名 : 加藤 慎吾
専攻分野の名称 : 博士 (教育学)
学位記番号 : 博甲第282号
学位授与年月日 : 平成28年9月27日
学位授与の要件 : 学位規則第4条第1項該当 課程博士
学位論文名 : 行動問題に対する知的障害特別支援学校の教師支援

論文審査委員 : (主査) 教授 大伴 潔
(副査) 教授 細渕 富夫 教授 小笠原 恵
教授 倉持 清美 教授 渡部 匡隆

学位論文要旨

知的障害特別支援学校に在籍する半数の児童生徒に何らかの行動問題があり、教師はその対応に苦慮していることが調査研究で明らかとなっている。行動問題支援においては、応用行動分析学の分野で発展してきた機能的アセスメントに基づいた支援が、行動問題の改善に効果があることが示されている。しかしながら、我が国の知的障害特別支援学校では機能的アセスメントに基づいた行動問題支援はほとんど実施されておらず、行動問題支援に必要な知識やスキルを教授する研修プログラムについても十分に検討されてきていない。教師の支援実行を促進させる効果的な教師支援が必要である。そこで、本研究では、知的障害特別支援学校の教師が機能的アセスメントに基づく行動問題支援を実施する際の困難を明らかにしたうえで、知識やスキル向上に関する研修プログラムの効果について検討を行った。

研究1では、機能的アセスメントの意義と効果を検討するために、先行研究では対象にされてこなかった見ためのコミュニケーション意図とは異なる機能をもつ行動に介入した。高頻度で生起する援助要求行動を単に援助を求める行動として捉えるのではなく、対象児の用いる要求行動がどのような随伴性によって維持されているのか推定した。その結果、援助を得ることの他に注目を得ること及び、やるべきことからの逃避によって強化されていたと推測された。これらの随伴性を操作する手続きを行った結果、援助要求行動の適切な使用が促された。長い時間を学校の中で過ごす児童生徒にあっては、様々な行動を起こすことが考えられ、見ためから判断されるコミュニケーション意図に惑わされることなく、機能的アセスメントを実施することの重要性を指摘した。研究2では、実際に行動問題支援を実施するうえで直面する困難について検討を行った。その結果、主に①問題となる行動に関する情報の収集、②行動の記録、③支援計画の実行に關す

る困難が示唆された。研究 3 以降では、研究 2 で明らかとなった困難と先行研究で指摘されている課題を基に、4 つのタイプの教師支援についてその効果と課題を検討した。研究 3 では、講義を中心とした一日研修プログラムの効果を検討した。講義は、主に応用行動分析学に関する基本的な知識や機能的アセスメントの実施方法と支援計画の作成方法、介入方法に関する内容であった。その結果、行動の機能に関する知識の向上と初期の行動問題支援プロセスについて高い実行の見込みをもつことができた。しかし、支援計画の立案や実行といったプロセスの実行の見込みは低いことが明らかとなった。研究 4 では、短期集中型の講義と演習からなる研修プログラムを実施した。研修参加者は実際に支援している児童生徒を対象に行動支援計画の立案、実行を行った。講義内容に関しては、研究 3 と同様であった。演習では、行動の記録の練習、機能的アセスメントの実施、支援計画の作成などを行った。その結果、参加者の行動分析学に関する知識の向上はみられたが、支援計画作成スキルは参加者によって結果は一定ではなく、その向上は認められなかった。行動の記録も継続されない参加者が多く、対象児童生徒の行動変容に関しても一定の効果はみられなかった。研究 5 では、中長期分散型の講義と演習からなる研修プログラムを行った。研究 4 の研修プログラムとはその実施期間を変更し、研修プログラム内に支援計画の実行と修正を行う機会を多く設けた。その結果、支援計画の実行段階以降に、教師の支援に対するフィードバックがあることが、その後の記録行動の維持や、支援の実行の維持、さらに児童生徒の行動変容に効果があることが示唆された。研究 6 では、学校現場での教師支援が、行動問題支援の教師の実行にどのような効果があるのか検討を行った。その結果、教師の正確な実行が維持され、生徒の行動問題の低減も実現した。さらに、外部の専門家との関わりがなくなった後も、教師たちの自立した支援が継続された。

これらのことから、教師支援において行動問題支援のプロセスの実行を促すための重要な示唆として、(1) 支援経過に合わせた研修プログラムの実施、(2) 教師の支援実行に対するフィードバック、(3) PDCA サイクルの繰り返し、(4) プログラム内容の組み合わせ、の 4 つを挙げた。つまり、講義と演習を組み合わせた中長期型の研修プログラムを基本として、支援経過に合わせた研修プログラムを構成し、教師の支援実行に対するフィードバックを与え、支援計画の立案から、実行、評価、修正と再実行という PDCA サイクルを数多く経験させる内容を組み入れることが効果的な教師支援のために必要であることが示唆された。最後に今後の課題として、本研究で得られた知見の一般化、研修で対象となった以外の児童生徒への教師の支援実行に関する検討、学校現場の体制上の困難に関する教師支援の 3 つを挙げた。